津田塾大学言語文化研究所主催
2022年度講演会

コロナ禍における言語生活の可能性の模索と大村はまの再評価

講師： 苅谷夏子　先生
（「大村はま記念国語教育の会」事務局長）

日時：11 月 25 日（金）5 限 16:20～17:50
＜オンライン開催（Zoom 使用）＞

【講演概要】

昭和を代表する国語教師・大村はまは、国語という教科の枠を軽々と超え、「一人前の言語生活者」を育てることを目指して心血を注いだ。ことばを介して自分と向き合い、現実を捉え、ことばで人と繋がりながら生きていく姿勢そのものを子どもに手渡そうとした。ある教え子は、あの教室で手にしたのは自分にとってのＯＳ（オペレーション・システム）であった、と振り返る。

「大村はま記念国語教育の会」は大村の実践と思想から学ぼうとする教育関係者の集まりだ。コロナ禍にあって、大村のそうした姿勢が、私たちを漠とした戸惑いや不安から抜け出させた。研究大会開催に代わる活動として文集『渦中』の制作に全力を注ぐことを決めたのだ。大村の重視した三つのこと（①記録すること　②編集すること　③てびき）を軸として文集はすでに３号まで発行された。渦中で私たちが何を見、何を理解し、また何を誤解したか。何をし、何をしなかったか。どんな選択をし、どんな苦心があったか―さまざまな立場の会員がなまなましいことばで記録した。

困難な状況において、言語生活がその困難につぶされることなく、かえって負けまいとする反作用のように静かな強さを帯びるさまが見られたように思う。今というときに、大村はまの再評価をしたい。

〈お申込み〉（要事前申込）
下記QRコードまたはURLの申込フォームよりお申し込み下さい。
https://forms.gle/nbbZ8ev7mw1RJAAi8

【申込期限：11月17日（木）】
※定員200名。　申込受付後、参加予定者にZoomのURLをお送りします。
お問い合わせ先：津田塾大学言語文化研究所
genbunken@tsuda.ac.jp

■講師略歴■
1956年生まれ。大田区立石川台中学校で、当時六十三歳だった国語教師大村はまに教わる。東京大学国文科卒業。結城紬職人、シカゴ日本人学校補習校教員、「大村はま国語教室の会」事務局長などを経て、現在、「大村はま記念国語教育の会」事務局長。オックスフォード大学社会学科教授で教育社会学者の苅谷剛彦氏は配偶者。

主な著作
「はまかぜ」特別版『渦中』 1～3（大村はま記念国語教育の会、2020～22年）
『評伝 大村はま:ことばを育て 人を育て』(小学館、2010年)
『優劣のかなたに―大村はま60のことば』(筑摩書房、2007年)